

会報

かけはし

(題字 支部長 神山則幸)

令和 1 年 11 月 1 日

第 52 号

発行者
神山則幸

地域との連携

― 風の人と土の人との融合 ―

副支部長 南 勇



川口市の教育の源は、戦後の混乱した中から「市民の教育は市民の手で」を合い言葉に、全市あげて取り組み、大きな成果をおさめた「川口プラン」に帰着する。当時、食べる物も少なく、まして宿泊施設もない混沌とした状況の中、全国から数千人の教育関係者が川口プラン視察のために殺到し、深い感銘を受けたのだった。

元文部大臣の永井道雄氏は「川口プランが成功したのは、子供だけでなく大人、そして地域が丸ごと学習したからである。今、予測不可能な時代にあつて、創造的・自律的に生きていくためには、大人がもう一度地域に入り、自ら変

わろうとして学んでいく、その情熱が地域を動かし、地域の民度を高めるのである。」と語っている。

教師は風の人と言われる。風人は、その学校に数年いて新風を吹き込み、子供たちに時には冷たく厳しい風となり、また時には、温かく、やさしい風となつて子供たちを良い方向に導いていく。

日本最良の背景 「学びの種」

川口班 高木 くみ子



自称地球号乗組員・世界の旅人は、四十を超える国々を歩いてきた。

平成二十七年の夏は、インドネシア日本人学校に赴任した後輩を訪ねる予定であった。ところが、

そして、地域に根ざした土の人である保護者・地域の人々がよく育ててきた子供たちをより良い方向に導いていく。これが、風の人と土の人の融合である。やがて、それは土地の風土となり、地域の教育力を高め、ひいては、その土地の民度を高め、文化を高めることになる。

退職校長は、かつて風の人であり、また地域にとけこんだ土の人でもある。この両者を体験している人の集まりである退職校長会は、教育を地域の中で、より進歩発展させていく発火点となつて、保護者・地域の人たちが自ら学習することに目を向け、子供の教育に情熱を注げるよう努力していく必要があると思つている。

急に歩くことが困難な状況に陥つた。脊柱間狭窄症で七時間に及ぶ手術を受け、背中に四センチのポルト二本とチタンの棒が入った。手術から三年を経た昨年、近場のカンボジアに出かけ自信をつけられた。今や遠距離も大丈夫と旅の虫が騒ぎ、北欧やアフリカ大陸まで

足を伸ばしている。

「私の子供には、日本の社会習慣やマナーを躰ています。」チュニジアの首都チュニスに三人しかいない日本語ガイドの一人ラサド氏、四十五歳の言葉である。彼はアラビア砂漠生まれ、アラビア語・仏領だった為フランス語・大学で英語・同時にジャイカ日本語教室に通い日本語を学び、語学に堪能な二児の父である。ジャイカが二十数年前に日本に招待。大学卒業後自国で三年働き三ヶ月日本に留学。ジャイカの営みが「学びの種」となり、ラサド氏の心を捉えた。

二〇一四年のテロ以降、チュニスは危険地帯として渡航が困難であったが、昨年二月から渡航可能になった。現地チュニジアでテレビをつける、中国国営放送がチャンネル権を得ている。NHKはない。ラサド氏は観光ガイドや企業の通訳など、幅広い活動を通して日本とチュニジアを結んでいる。

教育は気の長い種まきである。「学びの種」の大切さと意味を自問しながら、古代都市遺跡ドゥッガで、ベルベル人の歴史に浸る。

日本を語るときはラサド氏の輝く笑顔と嬉しそうなきに、「次代への種まき」のおもいが膨らんだ。

会員短信

我が人生、まだまだ何か

朝霞班 藤田 雅紀

退職後、北海道にある実家の手入に、定期的に通っています。

昨年九月、実家に到着した日の翌未明、激しい揺れに襲われました。胆振東部地震でした。夜が明けて、惨状が目に見え込んできました。足の踏み場もない屋内は勿論、波打つ道路や傾いた建物など、ごく僅かな時間での地震の破壊力に、唯々唖然とするばかりでした。ブラックアウトや物流の滞りなど、非日常的な体験もしました。我が人生、まだまだ何かがあるか分からないな、と思った次第です。

言語は文化を表す

川口班 黒須 隆雄

妻とのフランス旅行をきっかけに、フランス語を学び始めた。

学んでいてある疑問が氷解した。仏人は年齢より若く見られることを喜ばないと聞いていたからだ。

仏語では年齢を言うとき「AVOIR」という動詞を使う。この動詞は英語の「HAVE」にあたる。

。「私は六〇歳です」は「私は六〇年間の経験を持っている」と同義だ。「若く見える」とは「あなたは年齢より未熟に見える」ということになる。言語はその国の物の考え方を表す文化なのである。

毎日が調理実習

川口班 江川 剛

埼玉教員養成セミナー（県教委主催）専任講師の職から解放され、晴れて自由の身となりました。

専業主夫となり、我が家の猫の額ほどの家庭菜園でミニトマト、ナス、ピーマン等を栽培しています。今年は豊作です。インターネットで調理レシピを検索し、色々試作して食べています。

暑さが遠のいたら、鰯、白鯧、鰯等の釣りに出かけようと思っています。釣った魚（釣れない時は買う？）は自分で捌きます。家庭科の授業など行ったことのない私ですが、今になって調理実習を楽しみ毎日です。

日々坦々と

草加班 福田 寛

定年退職後七年目です。朝の台所回りの水拭きとストレッチ・補強運動、髭を剃る、家族の送り迎え、清掃・片付け、昼前に約一時間、息がちよつと上がる程度の速

さで歩く、二度読み、三度読みしたい本を読む、対象者の面接と書類書き、たまのジム通い、日々ルーティンワークができることが、今一番好きである。モヤモヤ気分の最大の解消法であり、自分らしく在ることを感じられる、曲がりなりにも健康でいられることをお天道さんと家族と親に感謝している。

無色

蕨・戸田班 奥富 孝浩

再任用を終了し第三のステージに入った。無職（色）となり時間の制約無く、囲碁、ゴルフ等に興じている。教え子から「先生」と呼ばれるながら回るゴルフが心地よい。また、今年度からバスケットボールのクラブを設立し活動している。部活動のガイドラインにより部活動が制限され、やりたい子、やらせたい保護者の要望に配慮する。以前から言われている社会教育への移行である。改めて誰の、そして何の為なのか考えさせられる。「無色」これも乙だ。

教育の成果は

川口班 柳田 和子

夏休みも終盤に近いある土曜日。教え子たちのクラス会に参加した。平成十六年、担任として受け持った最後の学級である。二年遅れの

真のグローバル教育を目指して

川口市教育委員会教育長

茂呂 修平



十年後、二十年後は、グローバル

化の進展により、多くの外国人と共存する社会が普通になることが予想され、国や文化、言語の違いを超えて人々がお互いを理解し、協力し合うことが大切になってきます。川口市は、全人口の約六％に当たる約三万七千人の外国人住民を有し、今後もその数は増加する傾向にあります。市としては、「日本人住民と外国人住民の多様性を活かした元気な川口のまちづくり」を基本理念に様々な施策を推進しています。そのような国籍や言語、生活習慣など、多様な背景を持つ人々と互いを理解し合うために重要なツールが、今や世界共通言語となっている英語です。教育委員会では、小学校から高校までを貫く市独自のグローバル教育事業を展開し、児童生徒に様々な機会を提供しています。本年度から始まった小学生イングリッシュサマーキャンプでは、約百名の児童が、宿泊を通して外国語指導助手たちとコミュニケーションを図り、三日間英語を主な使用言語

退職祝いの会を開いてくれた。なんとこのクラス会、親子同伴。

思い出話に花が咲く中、現況報告が始まる、教職に就くという夢を叶えた子がいる。それぞれが信念を持ち社会の一員として立派に活躍している。卒業から十五年、教育の成果はすぐに現れるものではないが、成長を感じた、次回は三年後。再会が楽しみである。

教採競争率の低下

川口班 桑原 憲一

本年度の教員採用試験もほぼ終了した。昨年度全国では応募者が一人減り小二・八倍、中五・五倍となった。本県でも本年度は応募者が減り、小中ともに昨年度の全国競争率と同じになった。

競争率の減は教員の質の低下を招くとの声がある、身近な志願学生の資質・能力は下がっていない。教職に対する暗いイメージの払拭、養成課程の内容と大学教員の資質の問題解決、教職に志と希望を抱く若者に応える育成や問題解決ができないれば減少は止まらない。

パソコンに再挑戦

蕨・戸田班 西田 元晴

古希を迎え、情報化社会の進展に遅れぎみの頭に「活」を入れるべく、パソコンに再挑戦してみる

ことにした。さしあたって目的は二つ。一つは、日常よく使われる実用性の高い「word」を極めること。もう一つは、プログラミング教育の推進に有効だと言われている教材ソフトを、いくつか実際に体験してみることである。

お役に立てる日も

朝霞班 尾崎 良夫

退職後、外国の方と交流する機会を得ました。日本の歴史や日常生活に興味を示してくれます。英・豪・印など国籍は様々で、共通言語は私の苦手な英語です。「伝えたい」「聞き取ろう」という気持ち

〇〇三昧を楽しむ日々

草加班 若林 茂次

仕事三昧を停年退職し、再任用の五年十一月を終え、完全リタイ

ヤの今年からは、週六日のジム三昧がスタートした。月一回の旅行を楽しむ傍ら、週七日の家事見習いがメインの毎日である。

ゴミ出し、清掃、調理補助と広がり続ける家事は科学だと実感できる。健康づくりからジム友まで充実したジムでの活動。足の先から頭まで意識した歩き方や姿勢までが重要だと実感。

何才でも、どんな事でも、学び続ける〇〇三昧は喜びの源である

昔の仲間と

蕨・戸田班 石森 康子

大学を卒業して四〇年近く経った頃、学生時代のサークルの仲間が合唱団を立ち上げた。私も、退職と同時に入会した。学生時代の先生にご指導をいただき、昔の仲間と歌う時間は格別である。

二年に一度演奏会を開き、聴いて頂く機会も設けている。声の衰えを感じつつも、ハーモニーの美しさや楽曲の魅力に浸る快感は、何物にも替え難い。

自分を受け入れてくれる場がある限り、歌い続けたいと願う日々である。



とする生活を送りました。また、夏季休業中に実施している中学生海外派遣事業は、十八名の生徒をオーストラリア・シドニーへ、高校生海外派遣事業は、十五名をカナダ・バンクーバーへ派遣し、現地生徒やホストファミリーとの交流を通して、実践的な英語を学んでいます。更に、本市は昨年、米国オハイオ州フインドレー市と教育分野に関わる友好都市提携を結び、相互の教育交流をスタートさせました。その一環として、本年度の八月には、川口市立高等中学校から第一期派遣生二名を約十ヶ月間、フインドレー高校に派遣いたしました。派遣生はホームステイしながら高校に通い、英語だけではなく、真の国際交流を通じてこれからの時代に生きるグローバルリーダーとしての資質を磨いています。来年度からは、バンクーバーの短期派遣事業がフインドレー市の短期派遣事業がフインドレー市で始まることや、フインドレー高校からの生徒受け入れなど、更なる交流が予定されています。

こうした様々な事業を通じて、本市の児童生徒が、より実践的に世界に通用する本物の英語力を身に付けると共に、国際感覚を高め、グローバルに活躍する人材となってくれることを期待しています。

支部だより

◆第一回理事会より

本年度第一回理事会は九月十三日金川口市立並木公民館に於て開催され、来る十一月二十日(水)実施される「現職・退職校長教育推進協議会」について、先の準備委員会(七月五日)の原案に基づき慎重に審議され実施要項が決定された。また、会報「かけはし」の現況や各専門部の本年度の活動方針や内容等について報告された。

◆教育推進協議会提案者決まる

主題「現下教育の諸課題」に関して次の方々が各界を代表して貴重なご提案をされる。

- (1)草加市立栄小学校長 今泉正之様
「児童が生き生きと活動する授業づくり」
「外国語活動・外国語科」研究を通じて」
- (2)蕨市立東中学校長 佐藤恵子様
「主体的に活動し心豊かに生きる生徒の育成」
「健康教育を柱にして」
「子どもたちの育ちを地域から支える」
「青少年育成市民会議の活動」
(文責 安東幸甫)
- (3)退職校長会朝霞班 小暮眞一郎元校長

ご冥福をお祈りいたします
堀 澤司様(川口) 7/21 七十五歳
(9/30現在)

班だより

◆蕨・戸田班(和楽登会)

新会員二名を加え、会員七十八名、森山征夫会長のもと「会員の親睦と地域教育の推進に協力する」を目的に活動を展開している。主な活動を紹介する。

◎研修旅行

親睦と自己啓発を目的として一泊二日の研修旅行を実施している。昨年は一日一組限定、源泉かけ流しの尾瀬鎌田温泉「ちぎら旅館」に宿泊。東日本大震災では原発避難者四十名を受け入れた話など家庭的な宿の良さを堪能。丸沼高原では日光白根山の絶景を楽しんだ。

◎散歩の会

秋(県内)
三十年度 大宮盆栽美術館
令和元年度 見沼通船堀
春(都内)
三十年度 高輪・泉岳寺界限
担当者の綿密な調査で毎回新しい発見があり、人気の企画である。

◎会員相互の近況周知

年三回の懇親会のおりには、会員の近況(欠席者も含む)を掲載。懐かしそうに目を通す姿が印象的。体調等の関係で出席できない会員にも送付、会員間のかけはしになっている。

◎地域教育への支援等

蕨市の「蕨学校土曜塾」への協力をはじめ、教育支援員、放課後学習教室等、学校サポートを通じて地域教育の推進に協力している。また、ゴルフを通じた現職校長会や他班との交流も行っている。
(文責 前田一男)

◆草加班

新会員三名、併会員一名を迎え会員百名で新年度をスタート。

◎役員改選

(退任) 前監事増田積、前事務局長佐藤高次、(留) 会長加藤慶隆、副会長関口憲二・佐藤高次・
(新) 平野恵美子、(新) 事務局長片岡敬一、(留) 監事金野和昭・
(新) 田中純子(敬称略)

◎教育支援の継続

▼第二次教育振興基本計画の推進
会員の豊富な教育経験を活かした学力向上支援への協力の継続。
▼草加寺子屋事業(土曜学習)への学習支援継続
小学校二十一校、年間十三回。

▼放課後児童クラブ事業等に協力

◎主な活動

①総会・懇親会(五月六日・振休)
今年度の事業計画、予算案、会則の一部改正案承認、総会四十名出席
高木教育長講話「草加の教育の現状と課題」。蓮実会員フルト演奏、細川会員の



「民俗資料館の教育普及」の発表。その後懇親会。
②クラブ活動
(ゴルフクラブ) 月一〜二回栃木方面のゴルフ場で開催・大会への参加。

- (読書会) 月一回、幕末の英才を多数輩出の儒学者・教育者・佐藤一斎「言志四録」勉強会開催。
- ③行政への要望書の提出
- ④忘年会(元年十二月一日(日))
- ⑤草加市現職・退職校長研究協議会(二年二月二十八日(金))
(文責 片岡敬一)

あとがき

北足立南部支部会報「かけはし」第五十二号をお届けします。ご多用の中、玉稿を賜りました各位に、衷心から御礼を申し上げます。

県の広報部会で、各支部の会報が交換されます。発行回数は、年一回の支部から南部の三回まで、様々です。南部はきめ細かいと好評です。

十一月八日は、はや立冬。一の酉でもあります。酷暑を乗り切られたのと同様、この冬も自愛ください。ご健勝にてお過ごしください。
(羽富 正晃)